

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02664

研究課題名(和文) 震災後文学の研究とその理論的構築

研究課題名(英文) The Study of Literature and Theory after Disaster

研究代表者

木村 朗子 (Kimura, Saeko)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：80433879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：木村朗子『その後の震災後文学論』(青土社、2018年)としてまとめた。2018年6月21～22日にフランス国立東洋言語文化大学(パリ)にて、当大学教授のアンヌ・バヤール=坂井氏と津田塾大学の共同開催で、「3.11後文学を今日的に考える」を開催した。2019年12月2日に、再び「日本文学を3.11後の視座で読む—作家いとうせいこうとともに」を開催した。以上二つの学会から論文集を作成中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究に関する意義と成果については、『その後の震災後文学論』(青土社、2018年)をひとつのおおきな成果とし、また『群像』2020年4月号に「震災後文学の現在地」として寄せた論考に、どのような国際学会が行われ、何が議論されてきたかを説明した。今後、二回行った学会のなかから、2020年度内に論集を出版の予定である。

研究成果の概要(英文)：訳文

This research summarized as the book titled *Sonogo no shinsaigo bungakuron or Later literary theory after the 3.11* (Seidosha, 2018). On June 21-22, 2018, I jointly held the international conference with professor Anne Bayard=Sakai at INALCO. On December 2, 2019, again I held with Professor Anne Bayard=Sakai the international conference. The title was "Reading Japanese Literature from 3.11 Viewpoints - Together with Author Ito Seiko." We now editing the book on this topic from those two conference.

研究分野：文学

キーワード：震災後文学 比較文学 文学理論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

震災後文学とは、2011年東日本大震災後に文学研究のひとつのジャンルとして成立したものである。2017年にフランス国立東洋言語文化大学で在外研究を行い、同大学のアンヌ・バヤール＝坂井氏と共同で学会に参加してきた。また2018年度以降の学会の共同開催へと話を進めることができた。フランスのパリは、滞在先の大学とパリ七大学とが共同で日本学の授業を行っており、年々減少している古典文学研究がまだまだ盛んな場所である。毎月一回、源氏物語をフランス語訳するセッションに参加させてもらった。

2. 研究の目的

震災後文学を扱う日本文学研究者は多く、研究者たちが集い議論する場をもうけることを目標とした。そのなかで文学理論を見出し、確立していくことを目的とした。

3. 研究の方法

国際学会への参加し、現在どのような研究が行われているのかを把握し、2018年以降の国際学会の開催の準備とした。

また『震災後文学論』(青土社、2013)について、震災後文学のその後の展開をより理論的に論じるための準備とした。

4. 研究成果

2017年に『その後の震災後文学論』(青土社、2018)を執筆し、2018年に出版した。

また以下のとおり講演及び学会発表を行った。

2017年4月7日オスロ大学(ノルウェー) East Asian Lunch Seminarにて Representation after 3.11: Reading Shin-Godzilla and Your Name(Kimi no na wa)というタイトルで講演。

2017年6月1日オックスフォード大学 Pembroke Collegeにて開催の TANAKA SYMPOSIUM IN JAPANESE STUDIES: Literature after 3.11 という学会に参加し、The Hauntology of Post-disaster Literature というタイトルで発表。

2017年8月30日～9月2日リスボン大学にて開催の EAJS(ヨーロッパ日本学会) 2017に参加し、パネル S3b_09:Gender and Cultural Space in Premodern Japanese Textsにて、"Border-Crossing in Towazugatari" というタイトルで発表。

2017年11月9日から12日ライプツィヒ大学にて国際日本文化研究センター主催 The 24th Nichibunken International Symposium Japanese Studies After 3.11 という学会で Precarious Life after Fukushima というタイトルで発表。

2017年11月15日～29日トゥールーズ大学にて客員教授として大学院マスターコースの授業。16日に Haunted Anxiety after 3.11 disaster : Reading Shin Godzilla というタイトルで講演。

2017年12月13日トリア大学にて「震災後文学にみる放射能災－フクシマとは何か」というタイトルで講演。

2018年2月1日オックスフォード大学日産インスティテュートにて Evacuees and refugees: What they lost というタイトルで講演。

2018年2月6日ロンドン大学(SOAS)の Stephen Dodd 先生の日本文学の授業にて学部生、修士大学院生に対し、震災後文学についての発表及び質疑。

2018年6月21～22日にフランス国立東洋言語文化大学(パリ)にて、当大学教授のアンヌ・バヤール＝坂井氏と津田塾大学の共同開催で、「3.11後文学を今日的に考える」を開催し、15名の発表者に、スラブ語圏文学研究者かつ文芸評論家の沼野充義氏、作家の木村友祐氏の2名のゲストスピーカーの講演をまじえて国際学会を行った。会議は、フランス語、英語、日本語で行われた。2019年3月8～9日に世界文学・語圏横断ネットワーク第十回研究集会で震災後文学のパネル「ヒロシマ、ナガサキ、チェルノブイリ、フクシマ」を

コーディネートし、フランス国立東洋言語文化大学のアンヌ・バヤール＝坂井氏をコメントーターに招いた。

2019年度は、2019年12月2日に、研究協力関係にある、フランス国立東洋言語文化大学において、同大学教授のアンヌ・バヤール＝坂井氏とともに国際学会を開催した。タイトルを「日本文学を3.11後の視座で読むー作家いとうせいこうとともに」とし、発表者は公募によって選んだ。11本の研究発表ののちに、作家いとうせいこう氏に対する公開インタビューを行った。このいとうせいこう氏への公開インタビューの様子は、『文藝』2020年夏号に掲載した。学会終了後から、アンヌ・バヤール＝坂井氏とともに、論文集の準備をすすめている。2018年度6月の学会とあわせて、選択した発表者に論文を募り、現在は明石書店の編集者と編者による入稿前の校正作業に入っている。

2019年度から『その後の震災後文学論』(2018年)の英語訳の出版の話が進んでおり、現在は、一次訳までが完成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木村朗子	4. 巻 114(4)
2. 論文標題 震災後文学の憑在論 (hauntology)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潮4月号	6. 最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村朗子	4. 巻 66(11)
2. 論文標題 フクシマ以後の崇高と不安の憑在論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学11月号	6. 最初と最後の頁 56-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 木村朗子
2. 発表標題 木村友祐作品における東北の声
3. 学会等名 国際学会「3.11後文学を今日的に考える」INALCO, Paris (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村朗子
2. 発表標題 The Hauntology of Post-disaster Literature
3. 学会等名 Literature after 3.11 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村朗子
2. 発表標題 Precarious Life after Fukushima
3. 学会等名 Japanese Studies after 3.11 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 坪井 秀人、シュテフィ・リヒター、マーティン・ロート (分担執筆者: 木村朗子第3部3章)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 338
3. 書名 世界のなかの ポスト3.11	

1. 著者名 橋本一径、都留ドウヴォー恵美里、志村真幸、フォルカー・デース、倉数茂、木村朗子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 224
3. 書名 他者 としてのカニバリズム	

1. 著者名 木村朗子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 254
3. 書名 その後の震災後文学論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----